※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０３７

令和５年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

対象や事象を感じとり、造形的な視点より材料と用具の特性を理解して「絵画・彫刻」、目的・機能・美しさを感じとり「デザイン」、美術作品の特徴や美しさを感じる心から「鑑賞」の分野について学習します。一人ひとり、思いや見方、感じ方が、みなそれぞれ多少の違いがあります。様々な表現形式・色彩・古典的技法などに着目して、自分なりの感じ方、表現を深めていきましょう。いろいろな見方を「鑑賞」で共有して考えを深めてゆきましょう。

2　学習の到達目標

⑴　対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
⑵　造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
⑶　主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し、発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	美術ってなんだろう	鑑賞・絵画・彫刻 オリエンテーション 教科書を鑑賞し多様な表現形式を理解して、今後の創造的活動に役立てる。	a:形や色彩・材料などの性質やそれらが人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに全体のイメージで捉えることを理解している。 c:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化についての理解を深めている。	ワークシート 個人発表		振り返りシート 意見交換(ディスカッション)
	人物画	・発想や構想 ・構想を練る ・制作 ・個々の作品を鑑賞する ・美術や美術文化で、古典的な技法に触れ、個々の作品がどの分野に関連しているか考察する。	a:材料(ポスターカラー)を理解し自分の考えたアイディア・構想(下絵)をもとに着想して発展させていく。 b:個々の作品がどのジャンルに分類されるか、他者の作品との比較から造形的な美しさを理解させる。 c:作品が完成した後、様々な作品との比較研究。様式や技法や着色の相違を理解し、研究・考察する。	(写真等)見本よりスケッチ・下絵(ラフスケッチ) 絵の具の理解 着彩の理解	他者の作品との比較 作品への応用や基礎技法からの発展	作品の合評 意見交換(個々のカードによる比較研究) 個々においては、振り返りシートの作成(感想文)
2学期	模写(油絵による、セザンヌの静物画の模写)	身近な物、静物画を有名な古典的な画風から理解し、アカデミックな技法によりスケッチし、油絵の具の素材を使用し着彩させる。 古典的な題材を使用することにより、作品の時代背景を理解し、作品への造形を深め、油絵との適合により、作品への造形が深まる。 鑑賞においても、古典的な作品を通して、当時の作者の作品から関連して、様々な名画への関心、態度が深まる。	a:油絵の特性を理解し、より作品への追求する態度が深まり、完成度の高い作品になることが期待される。 b:有名な作品から受ける完成度の高い技術を、模写という基礎技法に基づき、より高度な作品に近づく効果がある。そのためその作品から受ける見方や感じ方がより深まる。 c:セザンヌという印象派の巨匠の作品の理解が深まり、当時の作者の作品への関心が高まる。	油絵の基本的描写 キャンパスの理解 スケッチ 油絵の特性の理解	油絵の混色の仕方 用具の理解	ディスカッションによる合評 カードによる審査 個々においては、ふりかえりシート 感想文

※令和４年度以降入学生用

3学期	ペーパーウエイト	1･2学期は平面的な活動が中心だったので、3学期は、立体の課題に取り組む。 ペーパーウエイトという立体の造形を理解、用途に応じてデザインを考え、機能だけでなく形の美しさを考察して、使いやすさなど多方面からの効果を捉える。	a:形や材料などの性質が人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに、全体から受けるイメージを捉えることを理解している。 b:目的や条件を考え、どうしてその形に設定したか、その形がどのような伝え方など、表現の構想を練っている。 c:完成した作品に対して創造する喜びを味わい、目的や機能、作品の伝えたいイメージが、他者に影響を与えることを感じている。	構想を練るためのラフスケッチ	用具の正しい使い方 用具の理解	個々の作品への講評 生徒同士のディスカッション カード等による評価の比較 個々においては感想文
	1年間のまとめ	1･2･3学期に学習した内容のふりかえり 今後の美術のあり方 生涯にわたり美術との関わりを考える。	c:１年間の造形活動を通して、美術的な感性を考える。 美術とは何か、世界と美術との関わりを理解する。			１年間の感想

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度